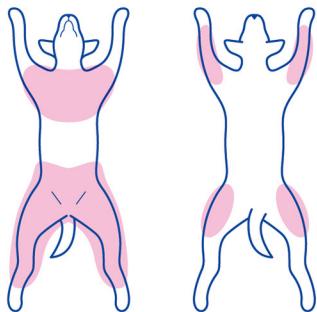




コルタバンス® 臨床使用レポート (国内)

Case 06

病変部位



プロフィール

犬種: シー・ズー

年齢: 11歳

性別: 雄

キーワード

アトピー性皮膚炎

報告

南大阪動物医療センター

副院長 平岡 文信 (大阪府)

診断 アトピー性皮膚炎

既往歴 左眼水晶体脱臼と網膜剥離。

症状 後肢内側～大腿外側前縁及の皮膚の苔癬化、発赤、痒みと眼瞼及び腋窩の発赤、痒みがあり、膿皮症と外耳炎の再発傾向があった。

血清T₄及びFT₄値は正常。皮膚糸状菌は認めず(TME培地培養陰性)、皮膚搔爬検査にて外部寄生虫陰性、皮膚押捺検査では球菌、変性好中球を認めた。

治療 イヌインターフェロンγ皮下注射(1万単位/kg、2週間おき)
コルタバンス®(腋窩と後肢に投与、1日1回7日間)

シャンプー クロルヘキシジン・ミコナゾール配合シャンプー及びオートミール配合シャンプー(週1回)

経過 両後肢、腋窩で症状の軽減が認められた。その後は瘙痒や炎症の再発部位に適宜1-2回投与を行い、数週間後には苔癬化と発赤の軽減及び脱毛部位の発毛が認められた。

まとめ 本症例の飼主はステロイド剤に対する悪いイメージから、経口のステロイド剤を拒否していた。コルタバンス®はアンテドラッグ・ステロイドを含有する外用剤で、全身性副作用発現リスクが低いという特長を持つため、「ステロイド恐怖症」の飼主には受け入れやすい治療の一案となり得る。

製品



コルタバンス®

有効成分:

ヒドロコレチゾンアセボン酸エステル(HCA)

効能又は効果:

犬のアレルギー性皮膚炎による症状の緩和

次ページに症例写真がございます。

Virbac
ビルバッカ

Passionate about animal health

株式会社ビルバッカジャパン 大阪市中央区淡路町1-3-14 TEL : 06(6203)3148



コルタバンス® 臨床使用レポート (国内)

Case 06

治療開始前



図1:腹部～後肢



図2:腋窩部



図3:腹部～後肢



図4:腋窩部



図5:左大腿～後肢



図6:頸胸部～前肢

3週間後

7週間後



●苔癬化軽減、発毛



●発赤と痒みは軽減状態を維持

ご報告いただいた動物病院様に御礼申し上げます。

Virbac
ビルバッカ

Passionate about animal health

株式会社ビルバッカジャパン 大阪市中央区淡路町1-3-14 TEL : 06(6203)3148